

PRESS RELEASE

報道関係者各位

2024年11月28日

野村不動産株式会社

リリースカテゴリ

オフィス

サステナビリティ

2023年10月竣工 「野村不動産溜池山王ビル」 木材利用推進コンクール『内閣総理大臣賞』 みなとモデル二酸化炭素固定認証制度『最優秀賞』受賞

—「(仮称)木鋼ハイブリッド梁」の共同研究 建築物の木質化拡大にむけた取組も推進中—

本プレスリリースのポイント

- 2023年10月竣工した「野村不動産溜池山王ビル」は、**木材利用促進コンクール 優良施設部門『内閣総理大臣賞』・みなとモデル二酸化炭素固定認証制度『最優秀賞』を受賞**
- 建築物木質化の拡大にむけた取組として木質材料と鋼材を一体化した「**(仮称)木鋼ハイブリッド梁**」を日鉄エンジニアリング(株)と共同開発し、「**国土交通大臣認定 2時間耐火構造**」を取得、今後積極的に非住宅建築物に採用予定

野村不動産株式会社（本社：東京都新宿区/代表取締役社長：松尾 大作、以下「当社」）が所有する野村不動産溜池山王ビルは、木材利用推進コンクール優良施設部門『内閣総理大臣賞』、みなとモデル二酸化炭素固定認証制度『最優秀賞』を受賞しましたことをお知らせいたします。

脱炭素社会の実現に向けて、気候変動などの課題への対応が急務となる中、木材利用の促進が求められております。また、木材の主要な需要先である建築物分野では、木材の利用による、建築時の温室効果ガスの排出削減やカーボンニュートラルへの貢献、森林資源の循環利用への寄与、空間の快適性向上といった効果に対して期待が高まっております。そのようななか、野村不動産溜池山王ビルに於いては、清水建設株式会社（本社：東京都中央区/代表取締役社長：井上和幸）の「シミズ ハイウッド®」を活用し木質建築部材と鉄骨造を合理的に組合せ、高い耐震性と耐火性を確保しつつ心地よい無柱の木質オフィス空間を実現いたしました。

また、当社では建築物木質化の拡大にむけて日鉄エンジニアリング株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：石俣 行人、以下「日鉄エンジニアリング」）と、集成材と無機繊維フェルトを用いた「(仮称)木鋼ハイブリッド梁」※1を共同開発し、「国土交通大臣認定 2時間耐火構造」を2023年12月に取得しており、今後は積極的に非住宅建築物に採用し木材利用を促進してまいります。

※1 正式名称は両社で協議予定



野村不動産溜池山王ビル



野村不動産溜池山王ビル 無柱の木質オフィス空間

あしたを、つなぐ

PRESS RELEASE

1. 各種受賞概要

1) 木材利用推進コンクール

<https://www.jcatu.jp/competition/>

野村不動産溜池山王ビル 優良施設部門『内閣総理大臣賞』受賞

木材を活用した優れた施設及び国産材利用を積極的に推進する優れた取組について「優良施設部門では①地域の木材を持続的且つ有効的に活用するための工夫②建築物の木造化・木質化のための工夫③木材利用による地球温暖化防止等への貢献④デザインや快適な空間づくり等における工夫の4点に関して、優れた施設が選定されます。

<受賞ポイント>

都心における高層木造建築物の実現に求められる高い耐火性・耐震性に対して、木質ハイブリッド技術の深化・発展を通じて合理的に解決を図った。都心のオフィス街において木質建築として特徴のある外観の創出、外部環境を最大限採り込む21m×18mの開放的な木質無柱空間、ワーカーの知的生産性の寄与などを実現し、中高層オフィス木質化事例としての貢献が期待される。

2) みなとモデル二酸化炭素固定認証制度

https://www.city.minato.tokyo.jp/houdou/kuse/koho/press/202410/20241030_press01.html

野村不動産溜池山王ビル『最優秀賞』、H¹O 芝公園『優秀賞』受賞

「港区建築主におけるみなとモデル二酸化炭素固定認証制度」及び「港区テナント事業におけるモデル二酸化炭素固定認証制度」に基づき認証された民間建築物のうち、①木材の使用方法が公開性や視認性、デザイン性に優れ、創意工夫がみられること②先進的な技術を利用して木材を使用していること③木材の活用に先導的な役割を果たしていること④協定木材等の利用に積極的に取り組んでいることの4点に関して優れた建築物が選定されます。

<野村不動産溜池山王ビル：受賞ポイント>

木質ハイブリッド構造を採用した木材利用量と高層木質建築に求められる耐火性、耐震性等の様々な課題に対し合理的アプローチで解決を図り木質建築における更なる木材利用に大きく貢献している。

https://www.city.minato.tokyo.jp/chikyuondanka/minato_model_awards/mmawards01.html

<H¹O 芝公園：受賞ポイント>

一部の柱と梁を木造にすることで木材使用量を増やし、内部だけでなく外部からも木材が見えデザイン性に優れている。

https://www.city.minato.tokyo.jp/chikyuondanka/minato_model_awards/mmawards02.html



H¹O 芝公園



H¹O 芝公園 専用区画

その他、野村不動産溜池山王ビルでは、ウッドデザイン賞 2024 年を受賞しております。

【報道発表資料】2024 年 11 月 26 日

<https://www.nomura-re-hd.co.jp/cfiles/news/n2024112602553.pdf>

あしたを、つなぐ

PRESS RELEASE

2. 建築物木質化拡大にむけた取組

1) 「(仮称)木鋼ハイブリッド梁」国土交通大臣認定 2 時間耐火構造

脱炭素社会の実現にむけ建築物における木材利用に於いて、木材使用量の増加・森林を有効活用することが求められており、木材使用量を大きく増やすには住宅などの小規模建築物だけでなく、中大規模建築物の構造部材や耐火被覆に木質材料を適用する必要があると言われております。しかし木質材料を用いた建築物は木材使用量が増加するほど、建築コストが増大し、普及が促進されない要因の1つになっています。このような背景から、木材を用いることで建築物を構成する鋼材の一部を削減し、コストの上昇を極力抑える工夫など、総合的にコスト低減が図れる工法の開発は急務となっております。そのようななか、当社と日鉄エンジニアリングは木質材料と鋼材を一体化する摩擦接合型コネクタの技術を活用し、鉄骨を木材により補剛しつつ、耐火性を確保できる「(仮称)木鋼ハイブリッド梁」を開発いたしました。

・木質材料使用量、炭素固定量の増加

集成材を使用することにより、長さ 1m 当たり 99.7kg の炭素が固定され、温室効果ガス削減および国内森林活性化に対して寄与することができ、脱炭素社会の構築に貢献できます。

※「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」(林野庁)による

・木質空間の実現

集成材は、H 形鋼の耐火被覆材の一部を担っており、本材料をそのまま現しで使用することが可能です。これにより、木肌を感じられる、温かみのある建築空間が実現できます。

・今後の展開について

今回の開発部材はカラマツ材の集成材を使用しておりますが、今後は使用可能材料をスギ材やヒノキ材へ拡張、およびより製造単価が安価な CLT 材へ拡張し、より使用できる幅を広げて、多用途多箇所への採用を実現させていきたいと考えています。



H 形鋼の下端に集成材を挟み込む構成により、鉄骨の補剛と耐火被覆を併せ持つ部材。集成材が被らない範囲は、無機繊維フェルトにて被覆

2) その他 当社木質化の取組に於ける各種認証取得等一覧

サステナブル建築物等先導事業 (木造型)	SGEC/CoC認証	ウッドデザイン賞	とうきょう森づくり貢献認証制度
野村不動産溜池山王ビル 2021年採択	H ¹ O平河町 2021年取得 H ¹ O青山 2022年取得 H ¹ O梅田茶屋町 2023年取得 H ¹ O芝公園 2023年取得 野村不動産溜池山王ビル 2023年取得	H ¹ O青山 2022年受賞 H ¹ O梅田茶屋町 2023年受賞 H ¹ O芝公園 2023年受賞 野村不動産溜池山王ビル 2024年受賞	H ¹ O平河町 2021年認証 H ¹ O芝公園 2023年認証
中高層・中大規模木造建築物の整備を促進するため、構造・防火及び生産システム面で先導的な設計・施工技術を導入したプロジェクトや木造化の普及に資する優秀なプロジェクトを支援することが目的。	森林が環境等に配慮しながら持続的に掲載されていることを認証するとともに、認証を受けた森林から適切な加工流通により提供される木材及び木材製品であることを認証し表示管理する制度。森林認証は、経営の持続性の確認だけでなく、環境配慮企業としてのイメージ・商品のブランディングを通じ消費者の選択を促す効果が目的。	木の良さや価値を再発見できる製品や取組について特に優れたものを消費者目線で評価し、表彰する顕彰制度。これによって木のある豊かな暮らしが普及・発展し、日々の生活や社会が彩られ木材利用が進むことが目的。	森林整備サポート認定制度・多摩産材製品による二酸化炭素固定量認証制度、建築プロ等による参加炭素固定量認証制度の3つの制度から構成。森林整備活動に関心のある企業や都民の方々による森づくりへの貢献と二酸化炭素吸収量活動の参加と多摩材の利用をより一層促進させることが目的。

あしたを、つなぐ

PRESS RELEASE

H10 梅田茶屋町（ 2023 年竣工済 ）



- ・一部木造の採用により、建設時 O2 排出量約 13t 削減、31.6 m³の木材使用により CO2 約 25t の固定化を実現
- ・国産木材を使用、一部大阪産材を使用し、地産地消にも取り組んでいる。



▲ 共用ラウンジ



▲ 1階エントランス

H10 青山（ 2022 年竣工済 ）



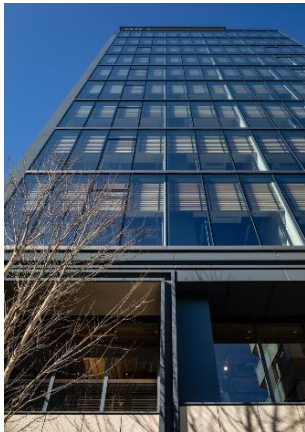
- ・主要構造部に「木造ハイブリッド構造」採用
- ・木造ハイブリッド化により建設時 CO2 排出量約 21t 削減、更に、木材使用により CO2 約 19t の固定化を実現
- ・CLT を活用した先駆的な建築物の建設等支援事業の助成制度（補助金）活用



◀ 共用ラウンジ

【報道発表資料】 2021 年 3 月 5 日 中高層オフィスビル主要構造部に「木造ハイブリッド構造」採用 建築時の CO2 排出量削減を実現
<https://www.nomura-re.co.jp/cfiles/news/n2021030501808.pdf>

H10 平河町（ 2021 年竣工済 ）



- ・外装の 50% に多摩産材の木ルーバーを採用
- ・SGEC/PEFC プロジェクト認証 オフィスビルにて初の取得
- ・木の街並み創出事業の助成制度（補助金）の活用



◀ 共用ラウンジ





【報道発表資料】
2021 年 1 月 26 日 国際森林認証「SGEC/PEFC プロジェクト CoC 認証」取得 不動産デベロッパー初・オフィスビル初の取得
<https://www.nomura-re-hd.co.jp/cfiles/news/n2021012801791.pdf>

2021 年 2 月 18 日 「とうきょう森づくり貢献認証」「CASBEE ウェルネスオフィス認証」等多数の環境認証の取得
<https://www.nomura-re.co.jp/cfiles/info/n2021021800368.pdf>

あしたを、つなぐ

PRESS RELEASE

【ご参考】野村不動産グループのマテリアリティと SDGs の紐づき

野村不動産グループ マテリアリティ		
		
本リリースの取組が該当するマテリアリティ	取組の特色	本リリースの取組が貢献するSDGs(持続可能な開発目標)
 <p>DECARBONIZATION 脱炭素</p>	<p>不動産デベロッパーとして、まずは「省エネ」「低炭素化」の建物開発に取り組みながら、「再エネ」の導入も推進。サプライチェーン全体でCO2総排出量の削減を実現していきます。</p>	
 <p>BIODIVERSITY 生物多様性</p>	<p>東京・奥多摩町で保有する「つなぐ森」による「循環する森づくり」を通じ、豊かな自然環境を保全するとともに私たちが開発する建物に、そこで収穫・製材した国産木材を活用するなど、CO2吸収や森林機能の向上に貢献します。</p>	

※野村不動産グループの重点目標（マテリアリティ）を国連のSDGs（持続可能な開発目標）「169の目標」に当てはめて整理しております。サステナビリティの取組み詳細は以下をご確認ください。

URL : <https://www.nomura-re-hd.co.jp/sustainability/>

あしたを、つなぐ